



新日鐵住金

しんにってつすみきん

株 主 の 皆 様 へ

2017

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたびは、当社グループの経営方針や経営の概況をお伝えいたしたく、本冊子をお届けいたしますので、ご高覧賜りたく存じます。

今後も当社グループへの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

2017年3月
新日鐵住金株式会社



八幡製鐵所

株主の皆様へ



株主の皆様の日頃のご理解とご支援に、心から御礼申し上げます。

当社を取り巻く環境

昨年は想定外のことがいろいろと起きた1年でありました。大方の予想を覆す形で、英国はEU離脱に向けた一歩を踏み出し、米国ではトランプ大統領が誕生することとなりました。これらの背景には、世界的な所得格差の拡大、中間層の疲弊、移民労働力の問題等があり、東西冷戦終結以降、金融を中心として米国が推進してきたグローバリズムの矛盾が露呈し始めたといえることができます。結果として、世界各地で、自国の利益のみを考えるいわゆる“内向き化”とも言うべき孤立主義的・保護主義的な傾向が生じ、世界の政治・経済情勢は先行きの不透明感を増すこととなりました。

こうしたなか、昨年は鉄鋼業にとってまさに「忍耐」の年でありました。

昨年初から鋼材市況は回復に転じたものの、大幅に円高が進行するとともに、年央からは原料炭の価格が急騰し、

マージンが圧縮されることになりました。また世界各国でアンチダンピングやセーフガード等の保護貿易的措置も急増しました。このような環境のなか、当社の上半期の収益は極めて低水準であったことから、中間配当を見送ることとさせていただきます。このことについて株主の皆様には心よりお詫び申し上げます。

また安全の面では、鉄鋼業全体で13件、そのうち当社で7件の重大災害を発生させてしまったことは、まさに痛恨の極みです。経済産業省等、関係省庁のご指導の下、官民による協議会が設置される動きとなりましたが、この協議会への参加を通じて当社の安全実力の現状を改めて客観的に見つめ直し、何としても安全レベルの向上を実現しなければなりません。

今年の鉄鋼業を取り巻く環境は、過剰生産能力の存在の下、原料炭をはじめとして原材料価格が高騰するなど、引き続き厳しい状況が見込まれます。一方、足下では幸い、マーケット環境は反転の兆しを見せています。当社が主要マーケットの一つとして位置付けるアセアン等の新興国においても、インフラ投資の加速や産業高度化に伴う高機能材需要の高まりを背景に、ミドル・ハイグレードの鋼材需要は着実に増加するなど、当社にとって追い風となる要素も見え始めています。

本年取り組む重点課題

安全の再構築

本年を当社の「安全体質特別強化年」と位置付け、「安全上の課題が多い職場に対する重点支援」、「本質安全化の加速」、「繰り返し災害の撲滅」、「安全に関する業務運営とその体制の整備・強化」、「協力会社の安全レベル向上に資する施策の実行」の5つの柱で対策を講じ、これを徹底していきます。

そのようななか、1月5日に大分製鐵所厚板工場において火災が発生し、復旧まで8カ月程度（9月操業再開）を要する見通しです。株主及び関係者の皆様に多大なご迷惑とご心配をお掛けし、深くお詫び申し上げます。私を本部長とする危機管理本部の下で、今回の火災の原因究明と再発防止策の実施に全社を挙げて取り組んでまいります。

2017年中期経営計画で掲げた施策の完遂

事業環境の激しい変化もあり、現在実行中の2017年中期経営計画で掲げたROS（売上高利益率）、ROE（株主資本利益率）等の財務的な数値目標に対して、現状は、まだかな

りのかい離がありますが、当社の基本戦略に基づいて計画で掲げた諸施策をやり抜き、体質を一層強化します。

安定稼働・マージンの確保

操業・設備面では、安定稼働に取り組み、計画した技術諸元をしっかりと達成し、コスト改善に結び付けてまいります。また、営業面では、原材料高のなか、お客様への理解活動をしっかりと行いマージンの確保を図ってまいります。

国内マザーミルの競争力強化

「設備」の面では、トラブル対策の全社横展開を着実に実施するとともに、網羅的な点検と一歩先を行く保全の実行により安定生産を行います。「人」の面では、効率化は引き続き追求する一方、2016年から採用人数を拡大しました。早期戦力化を進め、円滑な技術・技能伝承を進めていきます。

グローバル戦略の深化

海外事業については、業績指標の見える化を進めマネジメントを効率化・高度化してきたこともあり、海外事業の収益は全体で見れば黒字化を果たしました。蓄えてきたノウハウを大いに活用し、一層の収益拡大に取り組みます。



グループ総合力の強化

本年3月を目途に、高炉一貫メーカーである日新製鋼（株）を子会社化する予定です。この実現により、今まで以上に当社グループ内の連携を深めるとともに、全社ベストの戦略の下、シナジーの早期最大化を目指します。

2018年以降も見据えた検討

世界の鉄鋼業界の競争環境は、猛烈なスピードで変化しようとしています。そのことを念頭に、次世代を見据えて柔軟性と大胆さを持ち、2018年以降の経営計画に織り込むべきことの検討に着手します。

技術開発

当社の競争力の源泉は技術力です。地球環境問題への対

応も念頭においた次世代プロセス技術の開発や、競合他素材を圧倒する商品・ソリューションの開発を進めていきます。

品種事業戦略

最先端の技術や品質、デリバリー、ソリューション提案等の総合力により産業の発展を支えている当社の価値を、最大限お客様に認めていただくために必要なことは何かという視点から、当社のブランド戦略も含めた品種・地域事業戦略の検討を深めていきます。

製鉄所等の国内製造拠点

これまでと同様、不断に競争力強化に取り組みます。また、当社グループの総合力を活かし、IoTやビッグデータ、AIを活用した操業実力のレベルアップを図り、事業環境の変動に強いものづくりを追求していきます。

経営のソフト面

まず、「標準化」の活動に全社をあげて取り組みます。標準化は高度IT技術との融合を経て、次世代のマネジメントのあり方につながる基盤となるものと考えています。これは最適生産体制を下支えするとともに、人材育成や安全・品質管理等の面における抜本的な業務改善に資するものです。そして将来的には、海外も含めた当社グループの総合力の底上げにも寄与する施策と考えています。

今年度の業績見通しと当期末の配当予想について

今年度の連結業績につきましては、経常利益は第2四半期決算発表時（2016年11月1日）と同様、1,300億円となる見通しです。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、持分法適用関連会社の損益好転等により、第2四半期決算発表時から200億円増益となる800億円となる見通しです。

当期末の剰余金の配当につきましては、当期の業績見通し等を踏まえ、1株につき25円（年間配当金としては1株につき25円、連結配当性向28%）とさせていただきます（詳しくは、3頁「業績概況 2017年2月2日公表」をご参照ください）。

株主の皆様には、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

進藤 孝生

業績概況

2017年2月2日公表

2016年度連結業績予想及び当期末の剰余金の配当予想について

●足下の事業環境について

世界経済は、米国は安定的な成長が継続し、欧州は景気の緩やかな回復が続く一方、中国も政府の景気対策の効果等により持ち直すなど、引き続き緩やかな回復が期待されております。

日本経済は、雇用環境が改善しており、政府の経済対策の効果に加え、企業の生産の改善など、緩やかな回復の継続が見込まれています。

国内鉄鋼需要は、自動車分野の復調を主体に底堅い推移が見込まれ、海外鉄鋼需要についても、北米やアセアン諸国が堅調で、中国内需も底堅く推移するものと想定されています。国際鉄鋼市況については、需給の改善を背景に、堅調な動きが継続するものと見込まれます。

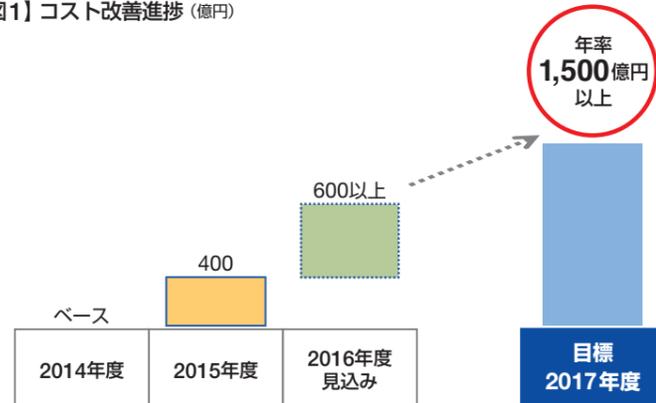
●当期連結業績予想について

このような環境下、中期経営計画にて計画したコスト改善は着実に実行している一方(図1参照)、石炭を中心とした原材料価格が、昨年夏場以降急騰していること(図2参照)、こうしたコスト増の販売価格への反映をお願いしているものの、価格への反映に関する浸透差によりマージンが縮小していること、オイル価格の低迷に伴いエネルギー向け鋼材需要が低迷していること、本年1月の大分製鉄所厚板工場の火災影響による生産出荷減等の影響(100億円程度)等により、2016年度の連結業績は、経常利益は1,300億円、親会社株主に帰属する当期純利益は800億円を見込んでおり、前年度から減収減益となる見通しです(表参照)。

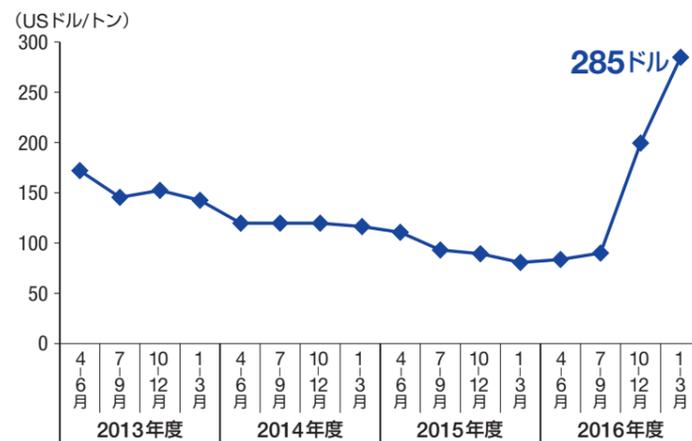
●当期末の剰余金の配当予想について

当社は、業績に応じた利益の配分(連結配当性向年間20~30%程度)を基本に、企業価値向上に向けた投資資金所要・先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を考慮しつつ、剰余金の配当を実施する方針としております。当期末の剰余金の配当は、本方針に従い、1株につき25円(年間配当金としては1株につき25円、連結配当性向28%)とさせていただきます。

【図1】コスト改善進捗(億円)



【図2】強粘結炭 契約価格推移



2016年度連結業績予想

項目	2015年度	2016年度(予想)	(対2015年度)
売上高	49,074	45,500	(-3,574)
経常利益	2,009	1,300	(-709)
ROS	4.1%	2.9%	(-1.2%)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,454	800	(-654)
単独粗鋼生産量(万吨)	4,217	4,280	(+63)
為替レート(円/\$)	121	109	(12円高)

IRカレンダー

2017年4月下旬	2016年度(平成29年3月期)決算発表及び期末剰余金配当のご提案
2017年6月上旬	第93回 定時株主総会招集御通知のご送付
2017年6月下旬	第93回 定時株主総会

TOPICS

日新製鋼(株)の子会社化について



当社 進藤社長(左)と日新製鋼(株) 三喜社長

当社は、本年3月中に日新製鋼(株)の子会社化を完了します。今後、両社グループの経営資源を活かした相乗効果の創出、当社による鋼片供給の実施をはじめとするさまざまな連携施策の推進を通じてお客様に貢献するとともに、同社を加えた新日鐵住金グループとして「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」の地位を強化し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図ります。

「IT総合賞」を鉄鋼業で初受賞



授賞式の様子

当社は、公益社団法人企業情報化協会主催の平成28年度(第34回)IT賞で「IT総合賞」を受賞しました。IT賞はITを活用した経営革新に顕著な努力を払い、優れた成果をあげたと認めうる企業・団体等に対して授与されるものです。なかでも「IT総合賞」は最高位に位置づけられ、今回の受賞は鉄鋼業では初となります。当社は「国内製鉄1位と3位の大規模システム統合と、高度生産管理システムモデルの構築と展開」を評価され受賞となりました。

新エネルギー財団「新エネ大賞」経済産業大臣賞を受賞



釜石製鉄所の石炭火力発電設備

当社は、(株)IHIとともに「国内微粉炭火力へのバイオマス(*)混焼拡大への先進的な取り組み」で、一般財団法人新エネルギー財団の平成28年度「新エネ大賞」経済産業大臣賞を受賞しました。経済産業大臣賞は新エネ大賞の最高賞です。

今回の受賞は、国内最大規模の高比率バイオマス混焼の達成、森林組合との連携による大量のバイオマス資源の調達などの取り組みが、大幅なCO₂排出削減効果や森林系バイオマス導入拡大が期待できる先進的なものとして高く評価されました。

(*) バイオマス：再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの

誘鹿材「ユクル®」がグッドデザイン賞を受賞

日鐵住金建材(株)のシカ対策商品である誘鹿材「ユクル®」がこのたび2016年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

「ユクル®」は、シカ対策システム「ユクリッド®」を構成する商品の一つです。シカは「鉄道敷設敷地内の鉄分を求めて線路に侵入する」という研究成果から開発され、鉄分による誘引作用でシカを誘導する世界で初めての誘引材(固形塩)です。導入及びメンテナンスが容易で安価であること、環境に負荷を与えずに対策できる点などが評価され、現在多くの鉄道事業者や自治体などに採用いただいております。



「ユクル®」をなめるシカ(左上は製品写真)

新日鐵住金グループの環境経営への取り組み

昨年12月8～10日、日本最大級の環境展示会「エコプロ2016」が開催されました。当社グループは同展示会に第1回から18回連続で参加しています。今回出展したアイテムの中から、いくつかをご紹介します。



エコプロダクツ®

自動車や家電などの最終製品に組み込むことによって、使用される段階でのCO₂削減や環境負荷低減に貢献する高機能の製品を開発・提供しています。

耐摩耗鋼 ABREX® —— とても硬くて長持ち

耐摩耗鋼 ABREX®(アブレックス)は普通鋼に比べ摩耗に強く、軽量化が図れる鋼材です。土木工事や資源開発など過酷な使用環境下にある建設機械や鉱山設備に採用され、ライフサイクルコストの低減や軽量化による省エネルギーなどの効果があり、環境にやさしい製品です。



ABREX®を使ったダンプトラック(荷台部分に使用)

チタン —— 軽くてきれいに長持ち

独自の表面仕上げ等により独特の風合いや色彩を持ったチタンが伝統的な神社仏閣やランドマーク的な建築物の屋根や壁に使用されています。例えば、浅草寺の宝蔵門、本堂及び五重塔の屋根には、旧来の日本瓦の風合いを有するチタン製瓦が採用され、優れた耐食性と約1/5の軽量化により、建物の耐久性や耐震性が高められています。



浅草寺宝蔵門/東京都
(右下は製品写真)



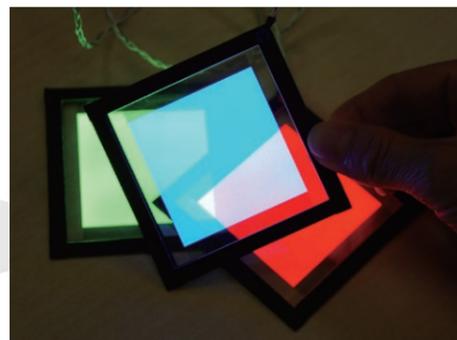
有機EL照明用材料 —— 色鮮やかで薄くて省エネ

新日鐵住金化学(株)は、有機EL照明に使用される発光材料を製造しています。

有機EL照明の特徴は、発光する有機層の厚さが1ミクロン(0.001ミリメートル)以下の超薄型で、面状であることです。赤色・緑色・青色の、それぞれの光を自由に設計して重ねることで、より自然光に近い風合いの白色光を演出します。省エネ効果に加え、紫外線を含まず、水銀を使用しないなど人と地球にやさしい照明です。



有機EL照明を使った鏡台/「エコプロ2016」で展示
(発光パネル提供: バイオニア(株)製)



有機EL照明



エコプロセス

生産工程や製品輸送等の事業活動の全段階において、環境保全、資源・エネルギー効率の向上、社内外の廃棄物の削減とリサイクルの促進を目指しています。

限りある資源を製鉄プロセスで無駄なく利用 —— 石炭由来の炭素繊維

鉄づくりに必要なコークスをつくる時に発生する副産物(「ピッチ」*)を原料として、新日鐵住金マテリアルズ(株)グループは、高機能炭素繊維「ピッチ系炭素繊維」をつくっています。軽くて強い特長を活かし、身近なスポーツ用品(競技用自転車のフレーム、テ

ニスラケットのフレーム、ゴルフクラブのシャフト等)から人工衛星用のアンテナ及び電子部品にいたるまで色々なところで使われています。

(*)ピッチ: 石炭等を乾留して得られるタールを分解した際に発生する黒色の残留物



新日鐵住金グループ企業理念

基本理念

新日鐵住金グループは、常に世界最高の技術とものづくりの力を追求し、優れた製品・サービスの提供を通じて、社会の発展に貢献します。

経営理念

1. 信用・信頼を大切にすることがグループであり続けます。
2. 社会に役立つ製品・サービスを提供し、お客様とともに発展します。
3. 常に世界最高の技術とものづくりの力を追求します。
4. 変化を先取りし、自らの変革に努め、さらなる進歩を目指して挑戦します。
5. 人を育て活かし、活力溢れるグループを築きます。

株主様へのご優待について

当社は、株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社グループの活動に関するご理解をより深めていただくこと等を目的として株主優待制度を導入しております。

詳細につきましては、対象の株主様に別途ご案内申し上げます。

●見学会・説明会

項目	内容	案内回数(実施時期)	案内対象
工場見学会への招待(抽選)	製鉄所・製造所の見学に招待いたします。	年2回案内 (3～4月頃、10～11月頃)	毎年3月末・9月末において 1,000株以上所有の株主様
経営概況説明会への招待(抽選)	東京・大阪をはじめ、各地で開催いたします。	年2回案内 (2～3月頃、7～9月頃)	

●各種優待

項目	内容	案内回数(実施時期)	案内対象
当社カレンダーの送付	当社カレンダーを送付いたします。	年1回送付 (11月下旬～12月初旬)	毎年9月末において 500株以上所有の株主様
鹿島アントラーズ観戦招待(抽選)	J1リーグ戦(ホームゲーム又はアウェイゲーム)に招待いたします。	年2回案内 (4～8月頃、8～12月頃)	毎年3月末・9月末において 5,000株以上所有の株主様
紀尾井ホール演奏会への招待(抽選)	「紀尾井シンフォニエッタ東京(*)」の定期演奏会をはじめとした各種演奏会に招待いたします。	年2回案内 (4～7月頃、9～2月頃)	

(*)2017年4月より「紀尾井ホール室内管弦楽団」に改称

株式に関する手続き

項目	内容
株主名簿管理人事務取扱所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (電話照会先) 当社株主様専用ダイヤル 0120-785-401 (フリーダイヤル) 株主名簿管理人代表電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
住所変更、単元未満株式の買取り・買増しのお申出先	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 (証券会社の口座で株式を管理していらっしゃらない場合は、三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。)
未払配当金の支払いお申出先	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

新日鐵住金株式会社

〒100-8071 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号
TEL: 03-6867-4111(代表)
ウェブサイト: <http://www.nssmc.com/>